

令和6年度（2024年度）

第2回知床世界自然遺産地域連絡会議

議 事 録

日 時：2025年3月24日（月）午後1時開会
場 所：斜里町産業会館 2階 大ホール

1. 開会

●北海道（竹本） ただいまから、令和6年度第2回知床世界自然遺産地域連絡会議を開催させていただきます。

本日は、年度末の大変お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の進行を務めます北海道庁自然環境局の竹本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、斜里町での開催となりますが、Z o o mによるオンラインシステムを併用しております。オンラインで参加の皆様につきましては、発言時を除きまして音声をオフにさせていただきますようお願いいたします。

また、参加者の皆様へのお願いですが、ご発言の際にはご所属とお名前をお願いいたします。

2. 挨拶

●北海道（竹本） それでは、開会に当たりまして、斜里町と羅臼町の両町長からご挨拶をいただきたいと思います。

●山内斜里町長 皆さん、こんにちは。

令和6年度第2回知床世界自然遺産地域連絡会議の開催地として、一言、ご挨拶を申し上げます。

本日は、年度末の大変お忙しいところ、本連絡会議にご参加を賜りまして、大変ありがとうございます。

本会議は、構成しております環境省、林野庁をはじめ、それぞれの機関、団体の皆様、また、羅臼町、斜里町の関係者の皆様に、知床世界自然遺産の適正な管理保全にご尽力を賜っておりますことに、改めまして、この場を借りて敬意と感謝を申し上げたいと思っております。

年度末ということで、この会議のメンバーにも異動される方がおられるかもしれません。とても残念でございますけれども、これまで様々な形で知床に関わっていただいたこと、また、本会議でご助言、ご提案いただいたことをしっかりとこの地域でも生かしながら、地元として適正な管理保全に努めていきたいと思っております。

また、もし異動されて知床から離れるということがございまして、知床から気持ちが離れることはないだろうと思っています。これからますますご活躍いただいて、いずれまたこの地域に帰ってきていただければと思っております。

知床は、私が言うまでもございせんけれども、人類の大切な宝でございます。このすばらしい自然環境を多くの皆さんに知っていただくためにも、本会議の果たす役割は大変に大きなものがあると思っております。

また、知っていただくということは、観光と密接な関係にあると思っております。これは、見るという観光の概念に加えて、体験して感じてもらう、また、感じたことから様々

なものを学ぶことが必要であるということで、知床はまさにそういった地域であり、これからも様々な変化に対応しながら、後世につなげていかなければいけないと思ってございます。

本日の会議では、例年どおり、事前にお示ししている議題に基づいてご審議いただきますが、それぞれ林野庁、環境省、北海道から事業の実施状況の報告をいただき、各部会、科学委員会からそれぞれの報告をいただくことになっております。

それから、第45回世界自然遺産委員会決議に係る対応、気候変動に係る順応的管理戦略についての報告、また、昨年の国立公園指定60周年、今年は世界自然遺産20周年の記念事業ということで、こちらの周年事業の実施についての説明もございます。

昨年に引き続き、この2か年にわたって実施される周年事業でございますので、昨年以上に盛り上がっていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

そして、様々な地域活動の場面でご活躍をいただいております北こぶしリゾート経営戦略室の村上様から、「地域をより良くする観光の可能性 知床の『クマ活』について」と題してご講演をいただくことになっております。

また、提案事項として、世界自然遺産と地域、これは仮称ですけれども、これらの企画についてもご協議いただくと伺っております。

本日の会議は、皆様からの貴重なご意見の下、有意義な会議になりますことをご祈念申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

●湊屋羅臼町長 皆さん、ご苦労さまでございます。

私からも、斜里町で開催ということで、この準備に関わりました皆さんにお礼を申し上げます。

山内町長から今日のお話でしたが、先日、世界自然遺産に登録されているのは5地域ございまして、その自治体の首長が集まる会議がございました。そこに参加をさせていただいて、昨年は知床が国立公園になって60周年、今年は世界自然遺産になって20周年ですねという話を伺ってまいりました。

その中で、国立公園になってから、特に世界自然遺産になってからの20年の知床の取組について、各地において非常に参考にさせていただいているというお話を伺ってまいりました。この取組に興味を持って、自分たちの地域にどう生かしていくかということを中心に聞いてこられました。そういう意味では、私たちの行っている、省庁であったり、各自治体であったり、地元で活躍されている産業団体の方、観光関係の方が一堂に会して会議が行われて、そこでいろいろな取組がまたスタートしていくということで、本当に全国的に注目を受けているところです。

これまでの皆さんのご労苦に対して敬意を表したいと思いますし、20年たちまして、さらに21年目となってまいりますが、これからも皆さんにご協力をいただき、この地域の本当の自然の在り方も含めて、しっかり皆さんとお話をしながら前へ進めてま

いりたいと思っております。

今日の会議がその一助となりますことを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（竹本） ありがとうございます。

◎連絡

●事務局（竹本） 本日の資料でございますが、次第の裏に資料一覧を書いております。不足があれば事務局にご連絡ください。

本日は、次第の議事（６）で、北こぶしリゾート経営戦略室の村上様から、「地域をより良くする観光の可能性 知床の『クマ活』について」と題してご講演をいただくことになっておりますので、後ほどよろしくお願いいたします。

２．議事

●事務局（竹本） 早速、会議次第に従って進めてまいります。

まず、議事（１）環境省、林野庁、北海道の実施事業報告です。

資料１－１をご覧ください。

こちらはダイジェスト版となっております、それぞれの機関が本年度に実施した事業を一覧したものです。資料１－２以降、説明する内容と重複しますので、一覧については後ほどご確認いただければと思います。

続きまして、資料１－２のエゾシカ対策事業の結果ですが、まず、１の遺産地域内の事業につきまして、環境省からご説明をお願いいたします。

●環境省（吉田） 環境省釧路自然環境事務所の吉田と申します。

まず、エゾシカ対策事業の遺産地域内について、私から説明させていただきます。

国指定鳥獣保護区等の保護規制の関係で狩猟等が実施できない遺産地域内のエゾシカ対策を環境省で実施しております。

こちらは、２０２４シカ年度と記載がありますが、シカの生活史等を踏まえたシカ管理やシカ対策の計画は、６月から次の年の５月という１年間で計画を立てておりますので、２０２４シカ年度は次の５月末までの期間の状況という形でご報告させていただきます。

まず、知床岬地区につきましては、捕獲なしということで、前シカ年度の捕獲作業実施中に従事されている方がヒグマに襲われる事故等がありましたので、安全対策の見直し、あるいは、最近の航空カウント調査においてシカの数が急激に増えているといった状況を踏まえて、現在、対策手法について見直しを検討していただいております。後ほど、ワーキングの報告でご説明しますが、そういった検討をしておりましたので、現時点では捕獲実績がない状況です。来月以降、少し捕獲が実施できる見込みとなっております。

続きまして、幌別―岩尾別地区ですが、この冬の捕獲で合計 67 頭、そのうち、雌は数を減らす上で重要になってくる雌の成獣の捕獲が 21 頭となっております。

続きまして、ルサー相泊地区も、捕獲が 19 頭で、そのうち、雌が 6 頭となっております。

幌別―岩尾別地区とルサー相泊地区につきましては、今期間の実施捕獲目標の頭数を上回る捕獲を実施しておりまして、計画に沿って順調に捕獲対策が実施できております。

環境省からは以上です。

●事務局（竹本） 質問などにつきましては、議事（1）の最後にまとめてお願いいたします。

続きまして、資料 1－2 の 2 ページ目の 2、隣接地域につきまして、林野庁からお願いいたします。

●林野庁（寺田） 知床森林生態系保全センターの寺田です。

私から、隣接地域の林野庁の捕獲事業についてご説明します。

まず、令和 6 シカ年度、今年の 1 月から 2 月の捕獲の結果ですが、捕獲手法はくくりわなによりまして、斜里町側はウトロ東地区とオシンコシン地区、羅臼町は春茹古丹地区で実施しております。

結果ですが、ウトロ東地区では 14 頭、オシンコシン地区で 39 頭、春茹古丹地区で 42 頭、計 95 頭、そのうち、雌を 51 頭捕獲しています。これは、目標頭数が 80 頭ですので、その 1.2 倍程度となります。

詳細の捕獲場所については図に示しておりますので、ご覧ください。

私どもからは以上となります。

●事務局（竹本） それでは、資料の 4 ページ目の 3 の隣接地域（北海道、斜里町、羅臼町）について、まずは北海道からお願いします。

●北海道（三井） 北海道から隣接地域の状況を説明させていただきたいと思います。

斜里町側では、令和 6 年 4 月から 9 月にかけて、ウトロ高原地区で 17 頭、半島の基部農地で 263 頭の捕獲をしております。

続きまして、羅臼町さんからお願いします。

●羅臼町（田澤） 羅臼町の田澤です。

羅臼町は今年、巻き狩りと流し猟により 34 頭と 86 頭となっておりまして、この時点ではそうだったのですが、3 月も捕獲数が順調に伸びて、当初は 34 頭プラス 86 頭で 120 頭だったのですが、2 月と 3 月だけで 120 頭になっています。つまり、シカ年度で言うと、合計 154 頭を捕獲したことになります。

銃器以外による捕獲数は記載のとおりです。

以上です。

●北海道（三井） 引き続きまして、狩猟で捕獲している分について北海道から説明いたします。

狩猟期間は10月1日から1月31日までとなっております。

ただし、エゾシカの狩猟期間につきましては、オホーツク管内は10月19日から2月28日までとなっております。

斜里町の一部の地域におきましては、捕獲効率の向上を目的として、狩猟期間中に中断期間を設けております。

羅臼町側につきましては、10月19日から1月31日までの期間となっております。

最後に、個体数調整を図る上でメス鹿の捕獲は重要となっておりますので、全道地域において、12月1日以降の銃猟によるオス鹿の捕獲については、狩猟では1人1日当たり1頭までとする捕獲制限を設定しております。

以上となります。

●事務局（竹本） 資料1－2の説明は以上ですが、ご意見、ご質問等があればお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●事務局（竹本） それでは、最後に全体について伺いますので、何かありましたらそのときにお出しいただくこととして、先に進ませていただきます。

議事（2）下部部会からの報告です。

まず、資料2－1により、知床ヒグマ対策連絡会議から説明をお願いします。

●北海道（三井） 知床ヒグマ対策連絡会議の事務局をしております知床分室の三井と申します。よろしくお願いします。

私から資料2－1について説明します。

こちらは、各町のヒグマの目撃・対応件数を集計しておりまして、知床財団の協力によって作成しております。

まず、1番目の令和6年度のヒグマ目撃件数です。

令和6年度につきましては、昨年度の大量出沒年と比べますと件数はいずれも減っている状況です。

2番目の令和6年度のトピックですが、冬眠明けから初夏にかけて市街地においてヒグマの出沒が発生しております。市街地への出沒は大量出沒があった昨年度と比較すると少ない数字になりますが、昨年度を除いて平均しますと、斜里町側ではやや多く、羅臼町側ではやや少ない数字になっており、昨年度を除いてほぼ平年並みの出沒状況となっております。

続きまして、3番目の町別の対応状況です。

前回の資料から変わった箇所を中心に説明させていただきたいと思います。まず、斜里町のヒグマの目撃軒数は、昨年度から比べると大幅に減少しているのですが、岩尾別地区や知床五湖では例年並みにヒグマの目撃が頻発している状況です。

ここで、次のページの図を見ていただきたいと思いますけれども、図1が斜里町におけるヒグマの目撃・対応件数の推移で、図2が市街地へのヒグマの出沒状況の推移です。

2023年度は大量出沒があり数字が大きいのですが、それ以前の2012年や2015年も大量出沒年と言われていました。今年度の出沒状況は、その2012年や2015年よりも少し多く市街地に出沒しております。

一方、羅臼町側の出沒状況ですが、目撃件数、対応件数は、4ページ目の表を見ていただきますと、昨年度と比較すると減っている状況ですが、平年並みに目撃されております。

図5は、大量出沒の翌年は、今年度がそうなのですが、春先から夏にかけての出沒が多く、逆に8月以降は急激に出沒が少なくなっている状況です。今年度の出沒は、冬眠明けから初夏にかけての目撃がほとんどとなります。

次に、国立公園内の状況ですが、9月以降に斜里町の岩尾別地区でヒグマが出沒し、多数のカメラマン等の公園利用者が、連日、川沿いで待機している状況が続いていました。

次ページの図7は、利用者の問題行動に起因する危険事例の集計です。

9月以降の青いところですが、ほとんどが岩尾別周辺の事例でありまして、9月以降に多くなっている状況です。

5ページの④の斜里町の幌別及び岩尾別地区において、1月下旬頃まで継続して複数頭のヒグマの活動が確認されております。

一番最近では、3月12日に国立公園内で冬眠明けのヒグマが目撃されているという話も聞いております。

目撃情報につきましては以上です。

●事務局（竹本） ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いします。

今年度は、昨年度に比べて目撃件数、対応件数、有害捕獲頭数が大幅に減少しているということです。

羅臼町さん、斜里町さんから、今回の結果や、今後の冬眠明けの想定などについて、何かコメントがありましたらお願いいたします。

●羅臼町（田澤） 羅臼町です。

ここには数字として出てきていませんが、今年度は親子熊の対応が非常に少なく、1件か2件しかなかったのです。昨年度に生まれた子熊が1歳になれていない、あるいは、今年度に生まれた子熊が極端に少ないということを表していると思います。

ちょっとした補足ですが、この状況が来年度以降はどうなっていくのか、注視していきたいと思っています。

●斜里町（増田） 基本的には記載のとおりですが、2ページの図2が分かりやすいかと思います。

大量出沒年の棒グラフがありまして、その翌年の2024年に、確かに2023年に比べると大きく減少しておりますが、他の大量出沒年の棒グラフと比べていただきますと、2024年も決して少なくはなく、特に斜里町市街、この周辺で、人が居住しているエリ

ア、特に半島基部での侵入事例が以前と比べると非常に多くなっています。

国立公園内については、餌付けやクマへの接近等、人側の問題行動を抑える自然公園法の改正等もしていただいておりますが、なかなか課題解決までは至っていないということで、市街地に出没したクマへの対応を想定した鳥獣保護管理法も改正の動きがあると思うのですけれども、法改正を実際の効果としてどうつなげるかということが、斜里町においても羅臼町においてもそうですが、全国的な課題かと思っております。

●事務局（竹本） 次に、資料２－２のシンボルマーク部会からの報告ということで、北海道から報告をお願いします。

●北海道（真野） 道庁自然環境課の真野です。どうぞよろしくお願いいたします。

シンボルマーク部会から報告いたします。

１件申請がありまして、１件承諾いたしました。

内容としましては、株式会社知床グランドホテルから申請がありまして、具体的にインバウンド向けに知床の魅力やホテルでサービスをお伝えするパンフレットにシンボルマークを使用する申請がありました。

以上です。

●事務局（竹本） それでは、資料２－３の適正利用・エコツーリズム検討会議からの報告ということで、環境省から説明をお願いします。

●環境省（二神） 資料２－３になりますが、利用適正・エコツーリズム検討会議の第２回目を令和７年２月２０日に開催しましたので、会議の概要についてご説明したいと思います。

（１）エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況は、新たな提案等はなく、以前に提案があった事業が承認を受けている状況です。

（２）各部会等からの報告は、まず、厳冬期の知床五湖エコツアー事業は、知床斜里観光協会が行っており、１月の実績は、前年度の約４倍で、利用者数は増加傾向にあります。ただ、人数が増えたことによって、当初の目的であった厳冬期の知床五湖の静寂さを体験できるプログラムが維持されているか、曜日や時間帯ごとの参加状況を分析して１件当たりの利用者の密度の傾向が分かるように整理してほしいということが検討されました。

②知床五湖地区における取組について環境省からの報告です。

知床五湖の利用調整地区で作成している利用適正化計画について、ヒグマ活動期の小グループの利用機会を増やすため、立ち入り人数の上限引き上げや、利用のガイドラインを見直すという報告がありました。また、再来年度ですが、認定手数料の改定も検討していくという報告を受けました。

また、今年から、知床五湖の１湖で園芸スイレンの除去を始めており、その報告もありました。７月から駆除を始めましたが、再生のスピードに除去が追いつかない状況でした。

スイレンの除去活動は、五湖の取組として重要ですが、国立公園の外来種対策としても重要なので、知床五湖の取組とは分けて、外来種対策として次回の検討会議の中で報告し

てほしいというご意見を座長からいただきました。

また、この除去活動は大変息の長い活動になるので、中途半端に継続するのは参加者のモチベーションにも影響するというお話もありました。

③のカムイワッカ地区における取組は、斜里町からも報告があった内容です。

カムイワッカ湯の滝の利活用検討事業は、試行事業として今年度で終了となります。そして、2025年度から2027年度の3年間を第1フェーズと位置づける事業計画を作成したということが報告されました。

今年度の事業についても報告があり、収支はマイナスだったのですが、前年度からの繰り越しで補填しているということです。

また、今後の経営の安定化に向けて森林管理局と土地の貸借契約を複数年で行う予定であるという報告を受けています。

続きまして、⑤のホロベツ地区の整備の長期化についてで、斜里町から報告がありました。計画を一旦中止にして、地域の関係者及び森林管理局の再調整を現在しているところであるという報告がありました。

次に、関係者からの報告で、①の知床しゃりアクティビティサポートセンターについて2024年7月に設立されたと斜里町から報告がありました。

②のルサ地区における取組は、羅臼町からの報告です。

羅臼町におけるルサ川の河川改修事業について紹介があり、その事業に関連して環境省によるルサ園地整備と相乗効果を図るという内容でした。また、環境省でサケマス類の遡上状況を観察できるフィールドにするという構想があることも報告されました。

③の北海道東トレイルの開通について、2024年10月に開通したと環境省から報告がありました。

④の国立公園指定60周年・世界遺産登録20周年記念事業について、環境省から来年度の世界遺産登録20周年記念式典等の記念事業の概要を報告しました。

⑤の知床星空散歩事業の結果については、知床斜里町観光協会から報告がありました。

星が出ているときは満足度が高いのですが、星が出ていないときの満足度も51%ということで、地元からもガイドツアーの日数増の要望があるなど、好評という報告がありました。

4のインタープリテーション全体計画の策定状況について、環境省から報告しました。

今年度は、斜里、ウトロ、羅臼の3地区においてワークショップを開催し、地域資源の洗い出しと整理を進めました。今年は、それに基づくストーリーの卵を作成し、来年度以降にストーリーを明文化して、ストーリーブックをまとめるという報告を受けております。

5ですが、エコツーリズム戦略の見直しとエコツーリズム検討会議の進め方について、環境省から報告しています。

エコツーリズム戦略の見直しに当たり、これまでの検討会議の経緯や実績、課題の報告がありました。

来年度以降の検討会とワーキングですが、来年度の7月頃に1回目のワーキングを行い、エコツーリズム検討会議については9月頃を予定しています。さらに、令和8年の1月頃にエコツーリズムワーキングとエコツーリズム検討会議を合同で行うことを予定しています。

最後に、エコツーリズム検討会議の座長をされていた敷田先生より退任の申出があったところです。

報告は以上です。

●事務局（竹本） 資料2-2、資料2-3につきまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

（「なし」と発言する者あり）

●事務局（竹本） なければ、次に移ります。

議事（3）科学委員会からの報告についてです。

資料の1枚目には、各ワーキンググループのトピックを書いておりますので、確認をいただければと思います。

本題の資料3-1から資料3-3まで、環境省からご説明をお願いいたします。

●環境省（吉田） 環境省釧路自然環境事務所の吉田です。

資料3-1と3-2の科学委員会の報告と、エゾシカワーキンググループ、ヒグマワーキンググループの報告まで、私からご説明させていただきます。

まず、資料3-1の第3回知床世界自然遺産地域科学委員会報告についてです。

3月5日に札幌で今年度第3回目の科学委員会を開催しました。

議事概要について、以下のとおりですが、まず、各ワーキンググループ等の検討状況についてということで、下半期のワーキンググループの状況について科学委員会の中で報告がありました。

詳しい内容は、この後、個別のワーキングごとの報告をさせていただきたいと思います。

それぞれの報告について確認事項あるいは議論があったのですが、特に岩尾別川における秋のヒグマ撮影を目的とした交通渋滞の危険事例について、複数のワーキンググループに横断する課題ということで、議論に多くの時間を割きました。

この点を補足させていただきたいと思いますが、先ほど、知床ヒグマ対策連絡会議の報告があったとおり、岩尾別川においてヒグマが川にいる様子を写真撮影したいということでカメラマンが集まるような状況が続いていて、あるいは、それに誘引されて通りかかった観光客もそこに止まってしまうといったことが以前から続いていたのですが、引き続き多く発生しております。

特にヒグマワーキンググループの中では、ヒグマとのあつれきをなくしていくため、アクションプランでいろいろな目標を掲げているのですが、その中でヒグマとの適切な距離を保てないことでの危険な事例の発生を避けることも掲げられているため、人側に起因する危険事例を把握していくことは重要な課題になっています。

そういうこともありまして、先ほど斜里町の話の中にもあったとおり、自然公園法をはじめとする法律の規制等でも過度な近接を規制する形で現在運用しているのですが、そういう例がなかなかなくならないので、課題として挙がっていました。

一方で、河川工作物アドバイザー会議でもこの問題が出てきました。岩尾別川でも河川工作物の改良という形で砂防ダムの撤去をしていただいて、サケマス類が自然に遡上できるような環境をつくる努力を続けているのですが、一方で、岩尾別川の河口にふ化場があって、ウライで遡上するのを妨げているのですが、そこを開けて上に上げることもできるにもかかわらず、現在のようにカメラマンがたくさん集まっている状態ですと、施設の運用上不都合が生じる懸念もあり、トラブルがある状態で遡上させることに対してすごく心配があるといったお話が出ているという報告がありました。

せっかく河川工作物の改良ということでサケの遡上を増やそうとしているところ、クマの問題でうまく進まないということも問題になっていますので、繰り返しになりますが、複数のワーキングを横断する課題ということで、科学委員会でもこの問題がどうにかならないのかというお話があったところです。

科学委員会の中で、どうすれば解決できるかということで委員の皆さんから助言等をいただきましたけれども、すぐにこうすればいいという方針が決まったわけではないので、先ほどの知床ヒグマ対策連絡会議という地域の会議でも、地域の皆さんと、どうやってこの問題を解決していくかを検討して、引き続き有識者の方々のお知恵を借りながら検討していく必要があるという状況です。

2点目は、携帯電話基地局整備に係る対応状況ということで、今年度、この件について科学委員会で取り扱ってきましたけれども、9月の第2回委員会以降の進捗等の報告をしております。

具体的には、10月の地域の推進会議の中で知床岬の整備については現在の計画で進めるのは難しいということで中止という話になりましたので、そのことのご報告と、羅臼のほうにあるニカリウス基地局については、ぜひ進めてほしいという意向が示されておりますので、そちらを進めるに当たって必要な自然環境の調査について事業を進めている事業者から計画の概要が出てきましたので、そういったところも確認しました。

そちらについては、個別の部分について引き続き有識者の意見を聞いて計画を固めるということでしたので、科学委員会の中でも、特に関係する分野を担当している方には相談しながら進めていくということでご報告をいただいております。

以降は書いてあるとおりですが、(3)と(4)については後ほどご説明させていただきます。

資料3-2につきましては、今年度の実績一覧ですので、お時間があるときにご確認ください。

以上が科学委員会のご報告になります。

続きまして、エゾシカワーキンググループの報告をさせていただきます。

資料３－３－１になります。

いろいろ書いてありますが、概要としましては、一つ目の四角のところでは、今年度の実施状況の報告ということで、基本的にはモニタリングの実施状況についてご報告したもので、こちらは定例でやっているものになります。

特に、今回、エゾシカワーキングで主に議論したものが二つ目の四角になりまして、次期の実行計画についてのご相談をしました。

冒頭、議事（１）の中でもお話ししたとおり、現在、知床岬のシカの捕獲対策の手法について見直しが必要な状況になっておりまして、今年度の前半をかけていろいろと検討してまいりました。

その検討を踏まえた今後の方針について今回のワーキングでご相談させていただいて、おおむねの方向性について合意をいただいたところです。

具体的なところは資料に書いているのですが、来年度から、捕獲のために現在使っている柵の改修や、将来的には冬期の捕獲を再開するといったご意見もありましたので、引き続きシカの密度が増加している状況ですので、なるべくそれを抑止できるような対策は続けていく必要があるという話になっております。

続きまして、資料３－３－２のヒグマワーキンググループの報告についてです。

こちらは、先ほどお話しした危険事例が増加しているということもありますが、今回の大きなトピックスとしては、昨年度のヒグマの大量出没を踏まえて、今、運用している管理計画の見直しということで、こちらについては地域でこういった形で見直しをしたいということをご相談させていただいて、ワーキング委員の皆さんの意見をいただいて合意することができたということになっております。

具体的なもの、３ページ目に図もあるのですが、これまでのヒグマ管理計画の方針では、ヒグマを捕り過ぎて数を減らし過ぎないようにするという観点や、個体数としては、できるだけ現状維持を図るような目標になっていました。一方で、昨年度に発生した大量出没では、現地でも対応が難しくなってしまうほど出没件数が増えてしまうという事例も発生しておりまして、この計画を立てたときに想定していた数字よりもヒグマの数が多くなり過ぎているのではないかという課題が上がっていました。

その中で、数が多過ぎる状態になったときに個体数調整という形で今までの問題個体だけを捕獲するという考え方に加えて、個体自体を調整、管理していくという考え方も取り入れていくという方針について合意をしたところです。

一方で、委員の皆様から出ていた意見の中では、ただ個体数だけを管理すればあつれきを減らせるわけではないということで、知床において、先ほどもお話ししたとおり、ヒグマとのあつれきを減らすためにいろいろ工夫してきたことがたくさんありますので、そういう努力を継続して、そういう対策と組み合わせてやっていくことが重要であるということもありました。知床ならではの管理水準を今後決めていく必要があるのではないかといたお話しもいただいております、大きな方向性については合意をいただいたのですけれども、具

体的な数値的な目標については今後も検討を続けていかなければいけません。こちらについても、先ほどと同様にヒグマ対策会議でも議論を続けていく必要がある状況となっております。

ヒグマワーキングの報告については以上です。

●事務局（竹本） 続きましては、資料３－３－３の海域ワーキンググループにつきまして、北海道から説明いたします。

●事務局（真野） 道庁自然環境課の真野と申します。

海域ワーキンググループの経過報告、今後の予定につきましては簡単に説明させていただきます。

海域ワーキンググループにつきましては、８月２３日に第１回目を開催しまして、２月１７日に２回目のワーキンググループを開催しました。

第２回ワーキンググループの主な議事内容ですが、一番大きな話題としましては、（２）の世界自然遺産決議に係る対応につきまして、第４５回世界自然遺産委員会決議で指摘のあったトドの採捕数や海鳥の減少に関する事項について、海域ワーキンググループを中心に検討を行った回答案を日本政府から保全状況報告として、ユネスコ世界遺産センターへ提出したことを報告いたしました。

また、知床岬地区における携帯電話基地局の整備に関する経過の報告などを行いました。

来年の予定につきましては、記載のとおりとなっております。

以上、簡単ですが、海域ワーキンググループからの説明を終わります。

●事務局（竹本） 続きまして、資料３－３－４、河川工作物アドバイザー会議の経過報告と今後の予定につきまして、林野庁からお願いいたします。

●林野庁（作田） 知床森林生態系保全センターの作田です。よろしくお願いします。

私から、資料３－３－４により、河川工作物アドバイザー会議の経過報告と今後の予定について報告します。

まず最初に、令和６年度河川工作物ＡＰ会議の開催状況ですけれども、第１回目の会議を令和６年７月２９日から３０日に斜里町で現地検討を含めて開催しております。第２回目の会議を令和７年１月２８日に札幌で開催しております。

次に、第２回会議の主な議事内容ですけれども、一つ目として、世界遺産委員会決議の対応についてということで、第４５回世界遺産委員会決議に係る対応に関わり、保全状況報告の内容について確認しております。

二つ目として、気候変動に係る順応的管理戦略について、気候変動に関する順応的管理戦略について報告しております。

三つ目として、長期モニタリングについてということで、令和６年度に実施したオショロコマ生息数調査及びサケ類稚魚降下数調査の結果について報告しております。

次に、河川工作物等についてということで、ルシャ川治山ダムの改良について、令和６年度で終了した工事の実施状況や令和７年度以降に実施予定のモニタリング調査について

報告しております。

次に、オッカバケ川治山ダムの改良について、2号ダムから1号ダム周辺の河川状況変化や2号ダムの切り下げ後の河川の流量変化について報告しております。

次に、岩尾別川治山ダムの改良について、7号ダムの切り下げ後の後の現状や、3号ダムのスリット改良状況について報告しております。

次に、ルシャ川河床路の状況ということで、河床路の現在の状況や物理環境のモニタリング調査結果について報告しております。

その他として、羅臼川におけるモニタリング調査及び改良ということで、サケ類の産卵床調査等の結果報告や5号床止め工の改良計画について報告しております。

次に、サシルイ川治山ダムの改良について・効果検証ということで、令和4年度から現在までの状況及び令和6年度実施の小規模魚道改良について報告しております。

次に、知床公園羅臼線朔北橋の橋梁補修について、1月24日時点における朔北橋補修工事の状況について報告しました。

次に、しれとこ100平方メートル運動のイワウベツ川における取組ということで、イワウベツ川におけるサクラマスへの復元に向けた取組状況とサケ科魚類の生息状況調査結果について報告しております。

次に、ルサ川における河川改修ということで、令和6年1月から令和7年2月まで計2回の改修工事を実施した状況を報告しております。

次に、知床地区における携帯電話基地局整備に関する経過ということで、知床岬地区における携帯電話基地局整備に関する経過を報告しております。

最後に、今後の予定としまして、令和7年度の河川工作物AP会議の1回目を現地検討を含めて7月に、2回目を令和8年1月に開催する予定としております。

以上です。

●事務局（竹本） それでは、資料3の説明につきまして、ご質問、ご意見等があればお願いいたします。

●環境省（岡野） 環境省釧路事務所の岡野です。

先ほど、科学委員会の報告で、岩尾別川の川沿いのカメラマンの問題について、複数のワーキングにまたがるテーマということで議事になったという報告がありました。先ほど、斜里町さんからも、自然公園法の法改正を受けてしっかり対応をというお話をいただいているところでございます。

公園法第37条を改正しまして、著しい接近と付きまといを規制行為としたところですが、けれども、罰則の適用については、環境省職員が注意をして、それに対して従わなければ罰則できるということで、注意をするとその場を離れてしまって、たちごっこが続いている状況です。

今後も引き続き指導をしながら、あるいは監視カメラ等も検討しながら徹底していきたいと考えているところです。

一方で、河川工作物 A P のときにちょっと話題になったのは、駐車している車が交通の妨げになって施設の利用等ができなくなっている、あるいは交通渋滞を引き起こすという問題です。そこについては環境省で対応できないと考えておりまして、道道や町道が問題になっておりますので、そちらの対応もぜひしっかりと検討いただきたいと思います。

先頃のニュースで、美瑛町で駐車禁止をしたという事例がございました。こういうところでああいうものを適用できないのかも含めて、地域連絡会議等でも議論をして、効果的な対策を取る必要があるのではないかと考えております。

まさに総合的な取組が必要になってくるということで、ぜひ連絡会議等でも引き続き議論をしていくテーマかと思っております。

非常に具体的な課題となってきていますので、一步一步進んでいけるように議論を進めていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

●事務局（竹本） ほかにご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

（「なし」と発言する者あり）

●事務局（竹本） なければ、先に進みます。

議事（４）第４５回世界遺産委員会決議に係る対応について、資料４－１、資料４－２につきまして、環境省様からご説明をお願いします。

●環境省（吉田） 引き続き、環境省釧路自然環境事務所の吉田より、資料４のご報告をさせていただきます。

こちらは、前回、第１回地域連絡会議の際に保全状況報告をさせていただきたいということで案をお示しして、この場でもご確認いただきましたが、令和６年１１月末に日本政府として世界遺産センターに回答しましたという報告です。

報告内容については、前回は案の形でこの場でお示ししたものから内容は変更しておりません。書きぶりや、一部、文言が修正された部分もあるのですが、基本的にはこの場でも共有した内容で最終的に報告しております。

内容について簡単におさらいをさせていただきますが、資料４－１の１ページ目は要約になりますので、２ページ目以降に、世界遺産委員会から知床に回答を求められていたことが幾つかございます。

まず、一番上の決議項目３ですが、気候変動の影響に関する部分で、気候変動への影響を最小化するための戦略を策定して提出してほしいとありましたので、対応しました。この後、資料４－２を使ってご説明したいと思います。

決議項目４と５につきましては、トドの管理に関するもので、こちらについても、新しいトド管理基本方針ができましたので、そちらに基づいて、今後は科学的な根拠に基づく採捕数を設定して、トドの管理をしていきますという回答をしております。

決議項目６については、モニタリング結果を見ると、ウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメといった海鳥類が大きく減っているという点を懸念しますという話だったのですが、こちらについては、現時点で明確な原因が特定できておりませんので、引き続きモニタリ

ングをしながら、あるいは、ほかの生物種との関係を含めて考察して原因を推定していきますという回答にとどまっております。

決議項目 7 につきましては、長期モニタリング計画の項目が不足しているのではないかという指摘だったのですが、昨年度に地域連絡会議でもちょうど 1 年前に第 2 期長期モニタリング計画の改定についてご説明しており、皆さんにもご確認いただいたものを最終的に世界遺産センターに報告させていただいております。

決議項目 8 は、継続して毎回聞かれていることですが、河川工作物の改修についてです。

主にルシャ川の部分ですが、進捗状況について問われておりますので、それぞれ回答しております。2024 年 11 月の時点までに大きな 6 年間にわたる改良工事が完了しましたので、そういった報告や、今後も改良を踏まえてサケ類のモニタリングを続けていきますという回答になっております。

主な指摘事項と回答の内容は以上ですが、先ほど、決議項目 3 のところでお話ししました気候変動に係る順応的管理戦略については、今回、資料 4－2 として配付させていただきました。こちら、前回の地域連絡会議でご説明して、確認いただいたということで確定したことになります。

細かい内容を全て説明している時間はないのですが、これが策定されたので、直ちに新しく変わるということではないのですけれども、ずっと続けている長期モニタリングをしていく中で、各生物種に影響が見られた際に、それが気候変動とどういった関係があるか、今後はそうした視点も取り入れてモニタリングを続けていきます。気候変動自体を知床という単位で解明するのは非常に難しいと思うのですけれども、そういった変化が起きても、知床で世界遺産として認められてきた価値である生態系、生物多様性を維持していけるような、そういう環境を維持していくためにどうしたらいいか、この戦略に基づいて取り組んでいくという方針になっております。

前回は説明をしたかもしれませんが、今回初めてこういうものをつくりましたし、ほかの世界遺産地域でまだ事例のないものを知床が先駆けてつくっているところもありますので、正直なところ、作り込みとしては不十分なところもたくさんあると思っております。今後、運用していく中でさらにブラッシュアップを図っていきたいと考えておりますので、引き続きご協力いただけますと幸いです。

環境省からは以上です。

●事務局（竹本） ただいまの資料 4－1 と 4－2 につきまして、ご質問、ご意見等があればお願いします。

（「なし」と発言する者あり）

●事務局（竹本） なければ、議事（5）知床国立公園 60 周年・世界遺産 20 周年記念事業につきまして、まずは資料 5－1 について環境省からご説明をお願いします。

●環境省（伊藤） 環境省ウトロ自然保護官事務所の伊藤と申します。

資料 5－1 について説明させていただきます。

国立公園指定60周年・世界遺産登録20周年記念事業についてということで、昨年度の
の国会でも説明させていただきましたが、今年度から事業を進めております。

実行体制に関しましては、斜里町、羅臼町、北海道、林野庁、環境省から成る実行委員
会を組織して、各種の事業を推進していくものです。

3のこれまで実施した主な実行委員会主催事業ということでは、今日ご出席いただい
ております両町長様にもご参加いただいたメディア向けフォーラムや、60周年記念シンポ
ジウム、SHIRETOKO Adventure Festivalとなります。こちらの
の事業では各著名人のご参加もいただいて、非常に盛況だったと認識しています。

来年度の主催事業に関しましては、8月31日に遺産登録20周年記念イベントという
ことで、ご登壇いただく著名人を含めて交渉に当たっている最中と**なり**ます。

別紙になりますが、2024年度に行った関連事業カレンダーと2025年度の予定と
なっている関連事業カレンダーを掲載しております。

関係機関との詳細確認中事業も多数あるので、引き続きよろしく願いいたします。

以上です。

●事務局（竹本） ただいまの説明にご質問等がありましたらお願いします。

（「なし」と発言する者あり）

●事務局（竹本） なければ、続きまして、資料5-2につきまして、知床財団様から説
明をお願いします。

●知床財団（村田） 知床財団の村田です。

ご説明いただいた事業に関連するのですが、今回、提案という形で資料を示させ
ていただいております。既に先日の科学委員会でも概略の説明をさせていただいて、若干
意見をいただいたところです。

ざっくりばらんに申し上げますと、この20年をきちんと振り返って、スタートラインで
確認したこと、目指したことをもう改めて振り返ることによって、現在の到達点なり課題
なり新たな課題なりをきちんと見詰め直す場が必要ではないかという趣旨の企画であり、
その結果が次の20年に繋がるものと考えています。そのような趣旨で、今日は報告が多
い会議ですが、あえて提案をさせていただいております。

企画趣旨をいろいろ書いていますが、ここにいる関係機関の皆さんが世界遺産の登録を
目指し、日本政府としても進めてきました。地域の側としても、本日参集頂いている関係
団体が協力し、課題を解決しながら遺産を守っていこう、あるいは、地域振興も役立てよ
うということを決断したと思っております。そのような意味でも遺産登録を契機として整
えられてきた、科学委員会と地域連絡会議に代表される場は非常に重要であり、こうした
場での蓄積を軸とした振り返りには意義があるものと考えています。

先ほど、湊屋町長からも、知床での取り組みが他の遺産地域のモデルにもなっており、
注目を受けているとの話もありました。トップランナーかどうかはともかく、そうした自

負を持って、行政機関も地域の人たちも頑張っていると思います。そういった取り組みを発信できるような企画にしたいと考えているところです。

2 ページ以降に具体的なことを書いておりますので、秋葉より説明させていただきます。

●知床財団（秋葉） 知床財団の秋葉です。

2 ページ以降に具体的な事業のご提案がありますので、簡単にご概要の説明をさせていただきます。

企画の概要の（1）は、来年度を想定しておりますが、振り返りということを改めてやっていくのは時間的にも大変ですので、既存の科学委員会なりワーキングなり地域連絡会議の場を活用させていただいて、20年間でやってきたことや、逆にできなかったものもあると思うのですが、そういう取組の振り返りをさせていただきたいと考えております。

科学委員会や各ワーキンググループについては、長く関わっている委員や座長がいらっしゃいますので、議論の総括のようなこともお願いできればと考えております。

もう一つは、企画のテーマにもありますが、地域という軸が大事だと考えております。これについては、まさに地域連絡会議の構成メンバーの方々とともに振り返りをさせていただきたいと考えています。そのため、この場を何らかの形で活用させていただけないかを相談したいと考えています。

2 番目に公開シンポジウムとありますが、この振り返りの内容を踏まえたシンポジウムができないかというご提案です。

時期については来年度2月から3月と書いていますが、これについては事前にお伺いした際にもご意見をいただいておりますので、これらを踏まえて今後、組立てや開催時期などを考えたい。現時点では、札幌と地元で2回程度の実施が望ましいと考えています。

また、予算や労力その他を考えましても、独自に独立して開催するというより、科学委員会ないしは地域連絡会議の場と連携した開催ができないか検討しております。

また、先ほど環境省の伊藤さんからご説明のあった通り、周年事業の実行委員会も組織されておりますので、実行委員会との連携なり分担もご相談させていただきたいと考えております。

関係者各位にはあまり負担を増やし過ぎないことも配慮しながら詳細を詰めたいと考えているところです。

3 番目は、20周年記念誌の発行とあります。

シンポジウム実施の記録ないしは振り返りのまとめのレポート等を整理した記念誌を発行したいと考えております。

2 ポツ目にありますが、一から全部編纂するというより、知床の取組みを毎年まとめたきた知床白書が大分積み重なっておりまして、これらを活用したい。また、知床白書の合冊版を作成し、リファレンスできるような資料もこういう機会にまとめていきたいということで、本編と資料編で構成した記念誌を企画しております。

知床白書は教育現場などでも使えるものと思いますので、作成した記念誌は学校等や図

書館などに寄贈したいという考えです。

3 ページ目になりますが、実施体制と費用負担とあります。

実施の体制は、こちらも検討段階ですが、世界遺産の管理者各位や地元の両自治体については個別にご相談させていただいており、実施主体ないしは協力団体としての対応をご検討いただきたいと考えております。

また、私どもは提案者ということで、企画運営事務を担当するほか、一定の費用負担を準備しているところです。

費用負担等については既存の会議や事業と連携することにより可能な限り低減、圧縮を図ることと、特定の団体に過度に負担をかけたりお願いをすることは考えていないことをお伝えしておきます。

スケジュールにつきましても、実際のメインの部分は、全体の日程調整の中で決めていくものと理解していますが、上半期については既存の予定されている科学委員会ないしはワーキンググループで振り返りをしながら企画を固めていくことを考えております。

具体的には、シンポジウム等は来年度の12月以降というのが実際のところかと思っておりますし、記念誌については2026年度以降になるだろうと考えています。

3 ページ目以降は、5 番目に前回の3月に行われた科学委員会等でいただいたご意見、4 ページ目以降には、最近このような企画の事例や参考になるものをおつけしております。以上です。

●事務局（竹本） 知床財団様からご提案をいただきました。

何かご意見があればと思いますが、いかがでしょうか。

北海道自然環境課はどうでしょうか。

●北海道（高田） 今、知床財団様から、20年間の振り返りや公開シンポジウム、記念誌の発行ということで、大きく三つのご提案をいただきました。

北海道としましても、遺産管理者として財団様のご提案のあった事業について協力していきたいという考えでございます。

●事務局（竹本） 北海道オホーツク総合振興局からご意見はありますか。

●北海道（三井） オホーツク総合振興局知床分室の三井です。

私共も、この話をお聞きしまして、協力していきたいと考えております。

●事務局（竹本） 環境省様はいかがでしょう。

●環境省（岡野） 20年間というのは、まさにそういうことに使ってこそ意義があるのではないかと考えております。

我々としては、科学委員会等の運営の中で振り返りをしながらそれを整理していくということをワーキング等で実施していきたいと考えております。

また、今回、地域での振り返りを改めて提案されたということは印象深く思っています。私も、世界遺産登録直後に世界遺産を担当していたときに、地域が世界遺産を目指すのだという非常に強い思いがあり、それを実現するに当たって、科学委員会等の助言を得て、

実現していったというところがあったと思っています。特に、漁業との関係については、地域の皆さんの思いをしっかり受け止めながら、どう共存させていくかというところが大きなテーマでありましたし、それに対して地域連絡会議は大きな役割を果たしていて、そういったところを実現したものだと考えています。

改めて、地域、それから、地域連絡会議の在り方を議論していくというのは非常に重要だと思っています。

●事務局（竹本） 周年事業実行委員会のメンバーでもあります林野庁様、いかがでしょうか。

●林野庁（川崎） 私どもも費用負担には制限がございますけれども、可能な範囲で地域にご協力させていただきたいと思っていますので、個別にご相談いただけるとありがたいと思います。

●事務局（竹本） 周年事業実行委員会の羅臼町様と斜里町様、いかがでしょうか。

●湊屋羅臼町長 羅臼町としても、当然ながら協力をしていく方向です。

事前にお話も伺いましたので、このことに対しては、地元としてしっかり携わっていかねばいけないと考えているところです。

●山内斜里町長 斜里町としましても、ある程度、事前にこのお話は伺っていました。やはり、次に向かっていくときには、これまでのことを振り返っていくことが必要だし、世界遺産になった当初と比べて、時代背景や、世界の環境の意識も変わっている中で、知床はどういう歩みをしてきたのかということは非常に重要な振り返りの機会であると思っています。

●事務局（竹本） 他の機関の方からご意見等がありますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●事務局（竹本） それでは、このご提案につきまして、3ページ目に示されているようなスケジュールで検討いただければと思います。

●知床財団（村田） 地域の皆様から意見はなかったですが、いろいろ相談していきながら進めたいと思います。行政機関と同じように、よろしくお願ひしたいと思います。

また、別の話題ですが事務局長から発言申し上げます。

●知床財団（玉置） 知床財団の玉置です。

僭越ですがけれども、私から意見反映をしていきたいと思っています。

地域連絡会議の関係で、地元の関係団体、斜里町、羅臼町の両自治体が集まる会議で、この間、多くの課題がありながら、連絡、報告に終始されていると感じているのは私だけではないと思っています、非常にもったいないと思っています。

課題があるのですけれども、その課題と積極的に向き合う姿勢というか、この会議だと、要綱にもありますとおり、調整や検討を行うところだと考えていまして、事前のコア会議的なものや議題の調整なども含めて、もっと有意義な会議にしてはどうかと考えておりました。

今、並行してエコツーリズム検討会議の戦略改定を行っているということもありまして、地域連絡会議が実効性や課題解決に関する調整、エコツーリズム検討会議との連携を行うということを要綱にあるとおり積極的にやるべきであるとともに、両自治体や、遺産管理者である環境省、林野庁、北海道の担当者が事前に事務局会議を行ったり、タイムリーに議題を持ち寄って、地元の意見反映などを含めて準備や整理ができないかと思っております。

我々も、この意見を持ち出す以上、やってくださいというお願いもそうですが、汗をかく用意もしていることを申し伝えます。

会議に出席されている方のご意見を伺いたいと思って発言させていただきました。

●事務局（竹本） ありがとうございます。

今、ご意見、ご提案がありましたけれども、各機関からご意見等がありますか。

北海道としては、昨年はこの会議に出まして、個人的には機械的な会議だなと思っていました。今回はなるべくシナリオどおりではなく、振ったりしておりますけれども、知床財団からのご提案がありましたが、これが普通の会議だと感じています。

この下に部会やワーキングがありますので、どうしても総会的な会議になるのはやむを得ないというか、そういう会議の意味づけはあると思いますが、いろいろ議論して、課題はこうだよ、では、来年度はこういうことをしていきましょうという会議が理想で、ご提案はごもっともだと思います。

これは、今すぐに私だけでどうこうできないですが、来年度はいい方向に行けるように、今後、事務局としても考えていきたいと思えますし、皆さんからもご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

●環境省（岡野） 今、局長に本音を言っていたような気がしますが、ぜひそういうふうにできたらと思っています。

具体的にはこれからだと思いますけれども、こういう提案を受けて、振り返りをするという意味でも、作業部会的あるいは幹事会的なものを組織いただいて、そこで何度か議論させていただきながら本番に臨むという形ができればいいと思っておりますし、我々としても積極的に参加して地域の皆様と意見交換できるような場になっていったらいいのかなと思っております。

●事務局（竹本） 他の機関からご意見はありませんか。

地元の協議会からご意見はありませんか。

●知床ガイド協議会（岡崎） 知床ガイド協議会の岡崎と申します。

報告だけという会議は非常に多くて、我々一般人が出るのは非常に苦痛なのです。私はガイドをしていますけれども、知床の自然の中にずっといますから、皆さんの意見とすごく乖離があるのですね。熊と鹿が減りました、よかったですねと、そんな感じしか受けないのです。それに対する影響はどういうふうになっていくかということを皆さんは全然お分かりになっていないような気がします。

それから、温暖化により鹿が減って、複合的な要因で植生がどんどん変わってきているのです。それと同時に、今まででしたら春になったら来る鳥が全然来なくなったり、今まで見ていた動物を見なくなったり、群生していた植物が一遍になくなっていったり、今まで草原だったところや畑の跡に、草なんか全然なくて、ササとワラビですね。そういうところで生活していた動植物が全然なくなっているわけです。では、そういうものはどうするのか。

世界遺産に指定されたときは、そのところは草原でした、いろいろな動植物がありました、今は全然ないのです。昔と比べたら、知床国立公園内は汚いです。魅力が全然ないのです。そういうことを皆さんはお分かりになっていないのではないですか。

これでは世界遺産だなんて胸を張れませんよ。そういうふうになったところをどう維持していくのか、どう利用していくのか。

知床五湖も、水面が30センチか40センチ下がっているのです。早い雪解けによって地下水がなくなっているわけです。そういう問題を将来にわたってどうしていくのですか。そういう議論をすべきではないですか。鹿が何頭減りました、熊が何頭減りました、熊だって、一昨年と去年ではまるっきり入れ替わっていますからね。今までの熊はみんな捕まえてしまったからいないのです。ですから、新しい熊が入ってきているわけです。それが慣れてくると熊はどういうことをしてくるのか、分からないわけです。そういうことをこちらは真剣に考えているのですけれども、皆さんにはそういう危機感が何もないのです。一番腹立たしいのです。こんな会議ばかりやってね。

知床をどういうふうにもっていくかということをもっと真剣に考えていただきたいのです。私もそこで生活しているものですから、勝手にいろいろなものをいじれません。皆さんの許可をいただかなければいけないので、そういうことをもっと分かっていたきたいのです。

ちょうど10年たちましたが、はっきり言って、国立公園内は最初よりはるかに悪いです。現状を維持するのか、昔のもっときれいだった知床に戻していくのか、その辺もはっきりビジョンを考えていただきたいのです。それをお願いしたいです。よろしくお願いします。

●事務局（竹本） 貴重なご意見をいただきました。我々も肝に銘じて会議なりで検討してまいりたいと考えております。

他の機関からご意見はございませんか。

●ウトロ地域協議会（桜井） 今の岡崎さんの言葉は、この20年という年月の中で、地元として見てきた変化の中の一側面だったと伺っておりました。

一方で、資料4に戻るのですけれども、世界自然遺産地域の気候変動に関わる順応的管理戦略というものがあります。今、課題として、岡崎さんがおっしゃっていたように、こういう様々な変化があることに関して、今回の管理戦略というのは、気候変動というところに目を向けて、今の知床世界自然遺産がこれでいいのか、これからも大きな変化が起こ

る中でどうやって対応していこうかという一つの指針として私は受け止めております。

この後のその他のところで伺えばよかったのですが、例えば、この中で言われるように、何か起こってモニタリングをして、そこで変化が認められたところについて、これはどう対応していくかということがこの文章の中でうたわれているのですが、それ以前に、今後、環境的な変化が起こったとき、その変化を止めることができる場所に関しては止めていかなければならないと思っています。

そういう観点から、気候変動に関しては、それぞれの柔軟な見直しや管理の方法をしていきますという中で、具体的にいろいろ示されているわけですが、気候変動に関わる、あるいは地球温暖化と言われているところに関わっていく中で、現在、非常に大きな問題になっているのがメガソーラーだと思っています。

知床国立公園ばかりではなくて、釧路湿原の国立公園の周りで本当に変化の兆しが出てきて、これは環境的に大きな原因になるのではないかと思います。始めて20年たった今、この状態です。どうして止められなかったのか、なぜ、国立公園でありながら、国立公園外の地域、なおかつ個人の所有、経済的な動き、電機産業という部分で手出しができなかったのか、今、大きく問題になっていますけれども、遅いだろうというのが私の感じ方です。これは、先ほど岡崎さんおっしゃっていたことと同じ意図です。遅いだろう、何とかできなかったのかというところが非常に悔しいと思っています。

そういう観点から、今、知床半島の基部に、斜里町の中に、メガソーラーの建設が計画されています。大規模太陽光パネル云々の規模ではなく、文字どおりメガソーラーの建設が計画されていて、地元に対する説明会まで具体的に行われています。

その場所は、野生生物でしたらオジロワシ、オオワシの渡りのルートになっているはずですが。また、設置するに当たって、オジロワシの営巣木はどうだったのか、そういった環境的なアセスメントをすらないような状態でその計画が進められていくと聞いています。

一方で、北海道はどういう形でその計画を受け止めているのか、地元の斜里町はどういう形で受け止めているのか、相対的に見て、知床半島の基部に少し入ったところですので、そういう情報は環境省のほうにないのだろうか。

それは遠いから影響はないよという問題ではなくて、かつて、北方四島で日ロの経済交流ということで、風力発電の計画がこの場であったのです。そのときに、羅臼町さんは、いち早く、その計画に対して、これは問題だ、何とか風力発電を北方四島の中に建てるのは、日本が経済的な支援を行うときに計画されたものですが、やめてくれという発言を2回の会議の中で繰り返されておりました。

まさしく、今言っているように、何か起こってしまったら大変だから、違う方法で発電できないか、あるいは、風力発電を止めてほしいと湊屋町長が強くおっしゃって、それに対して、これは経産省のやることですからというお話でした。最終的には日ロの何かの関係でその計画はなくなりましたが、かなり具体的に動いていたという印象があって、湊屋町長が声を上げてくれたことは本当によかったと思っています。

そういうことも含めて、今回の順応的管理戦略は非常にいい取組だと思っているので、世界自然遺産を取り巻く地域の環境という部分も含めてこういう場で議論していただけないかと思いますし、今回のメガソーラーの建設は始まりかもしれないと思っています。規模的なものを見ても、計画の内容を見てもそう思うのですが、そういう点はどのように捉えているのか、あるいは、この場で、これからは課題として協議していくような内容になり得ないものかということを伺います。

●事務局（竹本） ご意見をいただきましたが、いかがでしょうか。

●山内斜里町長 メガソーラーに関しては、もちろん町としても注視していますし、説明会も法的な基準的には義務はありませんが、事業者と協議を行い、説明会を事業者側で実施しました。ただ、私ももちろん注視していますけれども、法的に止めることができない、規模、場所も含めて町としてできるものではないのですが、その中でやれることと言うと変ですけれども、町としてもやっていきたいと思っています。

非常に難しいのは、自然公園法、あるいは何らかのものがあるところであればいろいろなやり方がありますが、現在の太陽光発電の計画をその場所でやることに関して、今、届出のある事例では行政としてやれる手段がないというのは事実です。

●事務局（竹本） 他にご意見等はございませんか。

●ウトロ地域協議会（桜井） 斜里町は、自然保護に関しても、緑と地域の共生という高い理念を持っています。自分たちの地域が自然の中で生かされているまちであるので、それを念頭に置いてまちづくりを進められていると思います。

このメガソーラーに関しては、着工の60日前でしたか、もっと前でしょうか、必ず町に届出をしなければならないという条例があるのですが、その届出はもう出されているのかということと、また、法的にどうにもできないところはありますけれども、町としてこの事業に関してここはちょっとというところ、あるいは、全体的な環境の保全を考えたときに事業者との協議の場を設置できないものなののでしょうか。

あるいは、この許可に関しては北海道も少し出す部分があるのではないかと考えているのですけれども、そういった点はどうでしょうか。

●事務局（竹本） 北海道の環境部局として、アセス法やアセス条例に係るようなものであれば、私の隣の部局でやっていますけれども、私は今、具体的な規模などは把握しておりません。ふるいにかかるような規模であれば、アセス条例、アセス法にかかって、北海道も関与しますけれども、今のところ、具体的な規模などが分かっていますので、コメントできない状況です。申し訳ございません。

●斜里町（増田） 斜里町の条例に対する協議はされております。また、土地取引の関係で北海道から照会があった時点から事業着手の意向があることは把握しておりました。

ここは世界遺産の地域連絡会議ですから、その案件について、別の場所でお話をしたいと思いますが、我々も事業者と一つ一つチェックして、事業者ともやり取りをしておりますが、法的にはクリアされているということと、埋蔵文化財の関係も含めて、そこも必要

な手続が踏まれているということで、行政として事業の中断や中止を求めることは現時点ではできない状況にあります。

●ウトロ地域協議会（桜井）　ということで、法的に、規模的に、事業者に対する戦略を含めてそれができない、だから、今の釧路湿原の周辺のようになってきたと思っていますので、全体的な手続、あるいは、地域性を鑑みたときに、こういう場でそういうことが起きないように、あるいは、そういう問題には何らかの形で対処していくという対策は、これから国単位で考えていかなければいけないということを地域として申し上げたいと思います。

●事務局（竹本）　ご意見として伺っておきます。

ほかに何かございますか。

●斜里町（増田）　資料２－３に訂正があります。

知床しゃりアクティビティサポートセンター（斜里町）の中に、「知床しゃりアクティビティサポートセンターを斜里町が設立」と記載されておりますが、正確には、斜里町と観光協会と一般社団法人知床しゃりの協議の下に設立し、現在、事務局については斜里町と観光協会とで担っていますので、訂正させていただきます。

●事務局（竹本）　それでは、次の講演に移ります前に、準備のために休憩とさせていただきます。

〔　　休　　憩　　〕

●事務局（竹本）　議事を再開します。

議事（６）北こぶしリゾート経営戦略室の村上晴花様から、「地域をより良くする観光の可能性 知床の『クマ活』について」と題してご講演を賜ります。

それでは、村上様、よろしくお願いいたします。

●村上講師　今、ご紹介にあずかりました北こぶしリゾート経営戦略室を担当しております村上晴花です。どうぞよろしくお願いいたします。

このような会議に出席させていただくのが初めてで、そうそうたるメンバーの前でお話しさせていただくことに、ご依頼をいただいてからずっと緊張しておりました。３０分という短い時間ですが、お話をさせていただければと思います。また、今回はクマ活のお話をさせていただきますけれども、私は個人的にさせていただいている知床ごみ拾いプロジェクトのご報告も含めてお話をさせていただければと思います。

それでは、「地域をより良くする観光の可能性 知床の『クマ活』について」と題してお話をさせていただきます。

まず初めに、自己紹介をさせていただきます。

私は、村上晴花と申しまして、

大学進学で北海道にやっ来てまいりまして、酪農学園大学でヒグマの研究をしておりまし

て、新卒で北こぶしリゾートに勤めております。

大学4年生で初めて知床に来ました。初めて知床に来たときは、知床が世界遺産だということを知りませんでした。観光地であることもあまり知らず、ヒグマの骨格標本をつくるアルバイトで来たときに、こんな大自然があるのだと驚きまして、その半年後に移住を決めていました。

知床に住んで、この年度末で丸8年になります。北海道や知床、そして、ヒグマのことをやっていたので、何かできないかと悩みながら、今、活動が続けているところでございます。

それでは、クマ活のお話をさせていただきます。

クマ活とは、ヒグマとの共存を目指す活動です。このロゴマークを見たことある方も多いと思いますが、ハートマークの左側に人、右側に熊というロゴマークが特徴的です。

北こぶしリゾートがやっている活動なので、私たちのDNAを紹介していきたいと思います。

私たち北こぶしリゾートは、知床でホテル業を営んでおります。今、知床ウトロ施設で運営している宿泊施設が四つございまして、北こぶし知床ホテル&リゾートとウトロ香川にございますK I K I知床ナチュラルリゾートの二つは、もともとユースホステルとして運営していたところを私たちの手でリノベーションをさせていただいた、知床夕陽のあたる家ONSEN HOSTELというものがウトロのキャンプ場の隣にあります。あともう一つは、ウトロの西に半年前くらいにオープンさせていただいたランタン知床というプライベートコテージも昨年7月から始めさせていただきました。

四つの施設があるのですけれども、130名のスタッフで運営しております。

さかのぼること65年前ですが、私たち北こぶしリゾートは創業が1960年でございます。もともと香川県から入植した桑島家が大正7年ぐらいから農業をやっていたのですが、農業が難しいという中で、道路が開通した昭和34年の次の年ぐらいから旅館業を始めたという経緯がございます。もともと5部屋しかない旅館業だったのですが、60年を経る中ですくすくと、グループ施設も持つようになったという成長がございました。

これも、知床があったからこそ、私たちは営みを続けてこられたということで、今から5年前の創業60年のときに、知床へ恩返しをしようではないかということで、イラストも描いていただいて、「知床を、つづけていく。」というコンセプトを基に何かやっこうということで始まったのがクマ活です。

なぜクマ活なのかということですが、知床においてヒグマの存在は大きいと思います。私もホテルスタッフをしていて、ヒグマが好きですし、本州から来たお客様や海外から来たお客様が、「今日、ヒグマを見たんですよ」という感動をホテルスタッフに伝えてくれることもあります。一部、ヒグマをお目当てにして観光をされる方もいらっしゃいますし、生態系の大きな部分を見たときのヒグマの価値といいますか、アンブレラ種といいますか、

ヒグマがいるからこそ知床の自然が豊かだよねというのは、皆さんは私よりも詳しいところだと思います。

ただ、そういう魅力のある動物である一方で、侵入だったり、地域住民の暮らしに影響が出たり、知床財団の方をはじめ、いろいろな方が対策をしているにもかかわらず、なかなかゼロにはならない現実があったり、片や、国立公園の中では人側の危険行為によって、ヒグマの人なれだったり、もしかしたら人のヒグマなれだったり、いろいろなことが進む中で、全てがイコールでどんどん続いていくわけではないのは承知の上ですけれども、総じて見たときに、人身事故やヒグマの駆除につながる可能性はどんどん高まっているのではないかと個人的にも客観的には思っているところです。

その中で、北こぶしリゾートが、「知床を、つづけていく。」、知床に何か恩返しをしようと考えたときに、知床財団の皆さんにご相談させていただき、ヒグマがやばいということではいろいろ考えて、クマ活を始めようということに至ったのが経緯です。

主な活動は、ヒグマの市街地侵入を防ぐ草刈り、ヒグマの誘引物除去、ヒグマのことを知ってもらうための普及啓発活動という三つの活動を主にさせていただいております。

ヒグマが市街地に侵入するということは、斜里町、羅臼町、いろいろなところで起きているかもしれません。その一部の要因として、鬱蒼としげっている草やぶが一つの原因になっているかもしれません。あとは、追い払うときに厄介な存在なのです。ヒグマが潜んでいるかどうか分からない草やぶは、森の中にあってもいいと思いますが、まちの周りの人がすぐ横を通る場所、ホテルがすぐ隣にある場所、子どもが学校に行くときに通る通学路にはなくていいのではないかとということで、まちの周りの草については、ヒグマが潜む前に草刈りをしましょう、それによって見晴らしがよくなった中で、ヒグマも人やまちの存在に気づきますし、人から見たときにもヒグマの存在にいち早く気づけるということで、ヒグマに対する境界線を見せたり、見晴らしをよくすることでヒグマを早期発見できる、追い払いを効率的にできるような目的のために私たちは草刈りをしております。

これは、実際に草刈りしている場所で、ちょっと見えづらいかもしれませんが、私の背丈を超えている鬱蒼とした草やぶがウトロの真ん中を走っているペレケ川の河川敷にありました。実際に熊が通ったかもしれないという場所で、人力で刈り取っていくのですけれども、すっきりする、見晴らしをよくするまで草を刈ろうという活動です。

6月に草刈りをしているところは、オオイタドリが生えているところですが、うちのホテルから徒歩で5分もかからないところにありまして、実際に熊が駆除されたこともあります。ここもすっきり刈り払おうというところです。

また、パトロールやごみ拾い活動ですね。ヒグマは、森の中で、ドングリ、サケ、鹿といろいろなものを、自然由来のものを食べていますが、人と森の接点と言いますが、例えば、国立公園内を走っていると、道路上にごみが落ちていた、森とまちの境目にごみが放置されていたということです。分かりやすく生ごみを書いていますけれども、コンビニのごみ袋だったり、パンのくずだったり、そういうものをヒグマが食べてしまうと、ごみの

味を覚えて、人の生活圏、人の活動圏に近づいて、いつの間にか、まちの中にヒグマが入ってしまっている、人にヒグマが近づいてしまっているということが起こり得るということが予想されます。

その中で、ヒグマの誘引物になり得るごみをヒグマに渡る前に先に人の手で拾ってしまおうという活動をさせていただいております。森にヒグマがいて、まちには人がいるのですが、真ん中にごみがあることで境目が曖昧になってしまうので、先にごみは拾っていきましょうという活動を行っています。

国立公園内で公園財団の方と一緒にやらせていただいたり、最近は釣りのことは規制がかかっていて、なかなか活動ができていないのですけれども、2021年、2022年頃には釣り人が幌別川やオンネベツ川にもいましたので、そういったところも週に1回ぐらい、シーズンに合わせてごみを拾ったり、いろいろなことをしております。

あとは、普及啓発活動ということで、セミナーをやるということもそうですが、ワークショップで、佐藤喜和先生だったり、旭山動物園の坂東園長をお呼びしてヒグマのことをいろいろお話しいただいたり、その後にみんなでお話しする機会をつくったり、イベント登壇なども行っております。

というのがざっくりしたクマ活の紹介でした。

続いて、みんなで解決する地域課題ということで、実はクマ活には様々な方にご参加いただいておりますので、少しご紹介していきたいと思います。

クマ活ですが、一番多いときで72名の方に草刈りご参加いただきました。これがそのときの写真ですが、コンセプトは「おしゃれに、たのしく、わかりやすく」ということで、最後の集合写真ですね。みんな疲れ切っているはずなのですが、めちゃくちゃ楽しそうに集合写真を撮ったり、オリジナルグッズをみんなで身にまったり、そんなことをして楽しみながら一致団結してやっております、

草刈りは、この5年間、6年間の中で21回開催させていただいて、延べ772名の方にご参加いただいております。その中には、この五つから参加していただいております。

当社の活動なので当社スタッフが参加するのはもちろんですが、地域住民の方にご協力いただいたりしております。

実は、70人の中にウトロ、知床に住んでいる方が何人ぐらいいるかというと、15人から20人ぐらいしかいません。ほかの50人ぐらいは、わざわざクマ活をするために外から知床にやってきてくれています。例えば、大学生だったり、私たち北こぶしリゾートのステークホルダー企業様だったり、観光客にご参加いただいております。

ホテルスタッフについては、自社の活動ということで参加していただいたり、新入社員については、今年もほぼ決まっているのですけれども、4月1日入社したら5月の草刈にはもう参加する、6月の草刈りにも参加するという新入社員研修として草刈りに参加させられております。

また、ステークホルダーの企業を1社紹介すると、コンサドーレ札幌様をパートナーシ

ップとして応援させていただいておりますので、逆にクマ活も応援させていただいて、OB選手である河合竜二さんがわざわざ知床まで来てクマ活に参加して、それをラジオ番組でしゃべってくれたり、ホームページにアップしてくれたり、そんなことをしてくれています。

また、観光客についても、本当にありがたいことに、遠くは屋久島や台湾からわざわざ参加しに来てくれた方がいらっしゃいました。やはり、観光客の中でも、オーソドックスにガイドブックに載っているような活動する、ガイドツアーに参加する、知床の観光船に乗る、いろいろな魅力はあるのですけれども、5回目とか6回目に来たときに、もうちょっと深い知床を楽しみたいだったり、ガイドブックには載っていない新しい体験を試みたいだったり、観光客目線の方が需要や要望がある中で、旅行会社と知床でクマ活、シャチ活をしていただいています。

シャチ活は、羅臼にお邪魔して観光船に乗らせていただいたのですが、クマ活も楽しみながらシャチも見に行こうということで、地域の人とローカルガイドを楽しみながらクマ活にも参加するというツアーを組んでいただきました。

また、SDGsを掲げる中で研修として参加してくれている大学生もいれば、クマ活の草刈りには、毎回、大学生のボランティアが8人ぐらい来てくれています。みんな交通費を自費で、遠くは札幌から来てくれている方もいますけれども、皆さんおなじみの網走の東京農業大学、北見の北見工業大学、北海道大学、酪農学園大学から毎回8名ぐらい来てくれています。中には、知床で卒業論文を書かれている学生もいて、流氷情報と観光情報と連携するとか、しれとこ100平方メートル運動の調査研究をしているような方もいらっしゃいました。知床に調査で来ているけれども、その中でクマ活に興味を持って協力してくれている方もいて、すごくありがたい存在だなと思っています。

こういういろいろな「関わりしろ」をつくって、いろいろな方を巻き込みながらクマ活は成長しております。

また、余談ですが、クマ活は参加するときにお金を徴収しております。協力金という形で、草刈りをするのに1人3,000円をいただいているのですが、ヒグマ対策用のごみステーションであるとれんべアの設置に充てさせていただいております。

一昨年からの活動を始めておりまして、既にウトロの中には、2基、クマ活経由で設置させていただいております。

まとめさせていただきますと、知床斜里町ウトロというのは、住人が1,100人ぐらいしかいない小さな地域だと思います。弊社のスタッフは130人ぐらいおりますけれども、自社だけの活動で、地域住民の方にご協力をいただこうと思っても、せいぜい1,000人の中でやるということになってしまうと思うのですが、そこだけにとどまらず、クマ活というロゴマークをつくって、ちょっとお金がかかるけれども、Tシャツもつくって、分かりやすいレクチャーを受けて、「おしゃれに、楽しく、わかりやすく」、幅広い方に賛同いただけるような形をつくり、企業研修でクマ活に参加しませんか、学校の

実習対応でクマ活をやりましますけれども、どうですか、ガイドブックに載っていない知的な体験としてクマ活はどうですかと、いろいろな企画を練りながら、いろいろな人を巻き込んで、ステークホルダー企業様だったり、観光客だったり、大学生の皆さんにも協力いただいて、多様な人材の参画で地域の課題を解決する、ヒグマ対策をみんなでやるという環境をクマ活を通してつくっている状況です。

みんなで解決する地域課題というお話をさせていただきました。その中で、今回のお話のテーマは「地域をより良くする観光の可能性」ですが、ここは私の持論なり憶測なりも入ってくると思うので、ご指摘などがございましたらぜひご指導いただければと思います。少し抽象的なところもありますが、話を聞いていただけるとうれしいです。

私が夢に掲げていることは、人が来るほど知床がよくなる未来です。ほぼ勝手に掲げています。

どういうことかといいますと、取りあえず、ヒグマ問題のお話をすると、皆さんのお話もあると思うのですけれども、これまでは、もしかしたら人が来れば来るほどヒグマ問題が発生していたかもしれません。これは、知床ウトロ地域だけの話ではなくて、往々にしてある観光公害と呼ばれるものの中に、人が来れば来るほど、ポイ捨てが起こってしまうとか、不法投棄があるとか、多くの観光地が悩んでいる課題があると思います。人が来れば来るほど、ごみが出ます。わざと捨てる人もいるかもしれませんし、ぼろっと落ちてしまうということもあります。

その中で、知床がほかの観光地と違うところは、ごみが落ちた、景観が悪い、汚いということではなく、それがヒグマ問題に発展してしまうところだと思っています。

そういうふうにどんどんひもづけて考えると、もしかすると、人が来れば来るほどヒグマ問題が発生していたという仮説も立てられると思います。そういったところを、クマ活を通して、人が来れば来るほど知床がよくなる未来をつくれるのではないかと考えております。人が来て、クマ活に参加して、みんなでアクションを実施するということですね。草刈りだったり、ごみ拾いだったり、普及啓発活動と、いろいろなことを実施することで、マンパワーとしてヒグマ対策を担っていくと。その中で、もちろん地域の中だけでいろいろなことを模索して考えるだけではなくて、東京から来た人、台湾から来た人、いろいろな人が、いろいろなリソースを持ち合わせて対策をみんなで考えることができる、草刈りをしながら、ヒグマ対策はこんな感じなのですね、では、僕はこういうことができるので、こういうものもどうですかというお話ができると、もしかしたら地域課題が一步前に進むかもしれない。そういった活動を経済社会的に価値をつけることで、より継続的な活動にすることで、もしかするとクマ活を続ければ続けるほど、人が来れば来るほど、知床がよくなる未来を目指せるのではないかと私は夢を見ております。

ただ、最近ちょっと思い悩むところは、知床には多様な課題があるということです。

私はルーツがヒグマにありますので、ヒグマのことを何とかしたいと思いながら、この5年間でいろいろな活動をさせていただいた部分もありますが、知床ゴミ拾いプロジェク

トに関することを伝えると、やはり、ごみの問題は、ヒグマのことだけではなくて、海洋ごみの問題や、最近で言うところの流氷ですね。年々、表面積が小さくなっていて、今年は来るのがすごく遅かったです。サケの遡上量についても、今年はカラフトマスが全然いなかったという話を漁師さんから聞いたりすると、私もこの5年ぐらい活動が続ける中で、ヒグマだけではなかったのかということを感じているところです。

クマ活を通してクマのことを解決するというのは表面的な活動だと思っています。「知床を、つづけていく。」という大きなテーマを掲げたのであれば、やはり知床を続けていくべきではないかと思います。抽象的で申し訳ないですが、ヒグマのみならず、いろいろな課題に対してアクションを取れる考えを深めていけたほうが良いと思っています。

最近、その中で一つ始めたことは、知床ツーリストシップというものです。

ツーリストシップという言葉は初めて聞いた方もいるかもしれませんが、スポーツマンシップのツーリストバージョンです。スポーツマンシップというと、スポーツを楽しむときに、ルールにのっとって正々堂々と戦って、相手をののしらず、お互いに尊重し合いながらゲームを楽しもう、スポーツマンシップを大事にしながらスポーツを楽しもうという気持ちがあると思いますが、それをツーリスト、旅に応用して、旅行者が旅先に行って好き勝手やるのがツーリストではないです。旅行者は旅先に配慮して、お互いにウィンウィンな関係性で旅行を楽しむからこそ、次の旅行も楽しい、そして、旅が続いていくというのが求められている気持ちではないかということ京都の団体が提唱していて、その皆さんと一緒に知床バージョンをつくろうということで進めさせていただきました。

ローカルルールというと、キツネに餌をあげないでとか、流氷に乗らないでねとか、ダメダメダメが重なってしまうのですけれども、ホテル業としては、こうしたほうが良いのではないかと、こういうほうが楽しめるよというほうが発信しやすいということもあって、野ギツネは見るだけにしましょう、熊は車から降りないで安全に見ましょう、流氷を楽しんでほしいけれども、乗らないでね、そういう優しい言い方でローカルルールを広めようという活動もしております。

多様な知床の課題に関して、ヒグマはもちろんあるのですが、流氷や、まだまだ考えが深められていませんが、森のことや、海のことや、サケのことや、いろいろなことができないかと、今、模索中です。

この中で、一つのキーワードを掲げていまして、ネイチャーリテラシーの向上という言葉です。

リテラシーという言葉は皆さんも何となく使ったことがあると思いますが、それに対する解像度が高い、理解している、使いこなせている、そのように私は解釈していますけれども、ネイチャーリテラシーが高いということが知床の旅をより豊かにしていくのではないかと考えております。

例えば、当社にご宿泊するお客様に、ネイチャーガイドツアーやクマ活に参加することで、もしかすると、自然に対する理解度が高まって旅行から帰っていくと、もしかしたら

自然に対する意識が向上するのではないかと考えております。私はこの変化をネイチャーリテラシーの向上と勝手に呼んでいますが、知床の旅がその旅人の人生に何か影響を与えるのではなかろうかと考えております。

その中で、知床に行っているいろいろな景色を見て、おいしい食べ物を食べて、クマ活にも参加して、その中で知床がすごくよかったな、プラス、自然というものは自分たちの手で守らなければいけないのだということをその人が学んだとすると、旅後に自然環境に対する意識が向上していて、日常生活でごみ拾いを始めてみるとか、マイカップ、エコバッグを使ってみようになるとか、次の旅先でも知床ではこうだったから屋久島でもこうしようかなという配慮をしていくような行動の変化が見られるのではないかと想像しています。

私は、1週間前にうちのホテルに泊まっていたのです。

札幌から友人が来たついでに泊まらせてもらおうということで、海が見える本当にすてきな部屋に泊まらせていただきまして、感動しました。北こぶし知床ホテル&リゾートは、今、149部屋をご用意しておりまして、半数以上が海を眺められるお部屋です。入った瞬間にこの景色が広がっているのです。流氷が漂っていて、ちょうど流氷が行ったり来たりする日でした。なので、15時にチェックインをして、部屋を開けるとこの景色が待っていて、お風呂に入って流氷を眺めて、また戻ってくると夕焼けの中に流氷があって、形が変わっていたり、朝起きるとまた形が変わっていたりします。

私も知床に住んでいますが、流氷をこんなに長い時間、見つめることはなかったなと感動しました。その中に、観察することを通して流氷はこんなにいろいろな表情を持っていたのかとか、そこにカモメが飛んでいたり、オジロワシやオオワシが飛んでいたり、いろいろな動物たちの姿が見えたり、空の様子が変わったり、日頃、知床に住んでいるにもかかわらず、知床のプチ旅を楽しむ中で、ネイチャーリテラシーが少し上がった気がしています。

それこそ、東京や海外から来た方々にとっては、窓の外の景色を眺めるだけで格別な時間を過ごせると思っています。ただ、その中で、流氷にどういう価値があるのか、この流氷ははかないものだということをこの旅人が理解したときに何が起こるのかということを私たちは考え続けなければいけないと考えております。

もしこの旅人が流氷のはかなさに気づき、私の手で何とかしたいと思ったときに、最近の旅人はSNSで情報収集しますので、旅後にこの旅人たちがSNSに、流氷はすばらしいものだったけれども、行動をしないと自然を守れないかもしれないという発信をしたときに、それが誰かの旅前につながって、この情報が順番に回ることによって、もしかしたら今の旅人が未来の旅人を引き寄せるという循環が生まれるのではないかと考えています。

ネイチャーリテラシー、自然に対する気づき、理解度、解像度が旅の中で向上することで、東京、本州、海外から来た皆さんが知床の中で自然のありがたみやいろいろなことに気づき、自分たちの拠点、生活に戻ったときに、この自然のために何かしなければいけないということをSNSや自分の生活やいろいろなことに反映していくと、もしかしたら地

球温暖化を止めて、知床にあと10年長く流氷が来てもらえるような地球温暖化を止める活動になったり、カラフトマスが遡上する姿が見られるようになったり、そういう地球規模の問題を地域だけで考えるというのはすごく弱いところがあると感じています。そこについて、年間100万人も来るようなお客様を味方につけて、よりよい未来をつくっていくことができるのではなかろうかと、今、ネイチャーリテラシーの向上というキーワードを掲げて弊社で取り組んでいるところです。

当社の考え、私の考えをざっくばらんにお話しさせていただいて、取りとめのない話になったところもありますけれども、「知床を、つづけていく。」という5年前に立ち上げたコンセプトについては、今も継続して、ずっと頭の中に置いて、当社の役員も活動を続けているところです。

2025年度もクマ活の日程が決まっております、皆さんにご連絡できると思います。草刈りをしますし、クマ活以外の取組も企画しているところですので、改めて来年度もご協力いただければと思いますし、ネイチャーリテラシーのことや、皆さんからご教授いただきながら活動を広げていきたいと思っておりますので、ぜひご支援のほどをよろしくお願いいたします。

私からのお話は以上です。

ありがとうございました。（拍手）

●事務局（竹本） ありがとうございました。

ただいまのご講演に対しまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。

●環境所（岡野） すばらしいご講演をありがとうございました。

ネイチャーリテラシーのことは非常に共感しました。

交流させていくというのは本当に重要だと思っています。国立公園の目的に教化という言葉があります。国立公園は自然の風景を利用することではなくて、人の人生を変えるのだと書いてあったのですが、まさにそういうことかなと思って非常に共感しました。

クマ活に参加されている方は、ネイチャーリテラシーがもともと高い方が活動していられていると思いますが、普通のお客さんが気づいて変わっていくには、ただ来るだけでいいのか、何か仕掛けが必要なのかというところがあると思います。ネイチャーリテラシーをより高めてもらうためのできる工夫のようなものはありますでしょうか。

●村上講師 クマ活に参加するとかガイドツアーに参加するというお客様は、もともと自然を学ぶということに対してお金を払う意欲のある方なので、当社の施設に宿泊する20万人の中でも全員というわけではないというのが現実的な話かと思います。

ガイドツアーにお金を払わないと分けたときに、観光で知床の自然を学びにというより、観光で知床に来ましたと。うちで言うと、サウナに入る目的で来ましたというお客様に対してどうアクションをしていくかについては、本当に小さな気づきで構わないと思っています。

知床の自然が見えるようにサウナの窓を大きく設置したり、デザインが何か変な形をし

ているなと思ったら、これは流水をイメージしているのかとか、流水とは何だということ
を調べてみたり、それが館内に展示してあったり、サウナの中で音が聞こえるのですけれ
ども、それがオオジシギの鳴き声だったり、流水のこすれる音だったり、そういうサウン
ドを使っているの、そういう気づきが何かにつながるのではないかと考えております。
ネイチャーリテラシーを積極的に獲得しにいく層と、単純に北こぶしは有名だから来まし
たという人に対しても、24時間過ごす中で少しでも気づきがある、アートだったり、サ
ウナだったり、食だったり、いろいろなところに気づきがあって、実生活に戻ったときに
1ミリでも上がっているといいなと思っていて、そういうところについても何かアクショ
ンが取れないかと日々考えています。

考え切れないところはあるのですが、いろいろなところで知床をお出しするのが私たち
の務めかと思っています。

回答になっているかどうか分かりませんが、以上です。

●環境省（岡野） 大変分かりやすかったですし、ちょっとした気づきでも少しずつ上げ
ていくというのは本当に大事だと思って聞いていました。ありがとうございました。

●事務局（竹本） ほかにご質問等はありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

●事務局（竹本） それでは、再度、講師の村上様に拍手をお願いいたします。

●村上講師 ありがとうございます。（拍手）

●事務局（竹本） 最後に、議事（7）のその他ですが、事務局で用意しているものは特
にありませんけれども、出席されている皆さんから何かございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●事務局（竹本） 特になければ、議事は以上となります。

本日は、科学委員会の中村委員長にもご視聴いただいておりますので、一言いただきた
いと思います。

●中村科学委員会委員長 ありがとうございます。

実は、半分くらい聞こえづらくて残念だったのですが、今の村上さんの話はものすごく
はっきり聞こえました。

ぜひ村上さんのような馬力のある若者が協力してほしいと思います。ヒグマは科学委員
会でも重要なシンボル種ではあるので、先ほどもご説明があったとおり、河川のほうでは、
せっかくダムを改良して自然のサケが産卵するような、野生ザケの復活を目指しているの
ですが、結果としてカメラマンと駐車する車が多く出てしまって、ふ化場の道を塞いだり
という問題が起きています。これは科学委員会もぜひ協力したいと思います。村上さん
のような若者たちがクマ活の次の活動として、何らかの形で知床で代表されるダイナミッ
クな、サケと熊の関係を妨げないで皆様の見たいという欲求を満たしていくか、そんなこ
とも考えてくれたらとてもうれしいと思いました。

また、20周年記念ですが、科学委員会の皆さんはいろいろ忙しいのですが、ぜひとも

協力したいと思っています。それは科学委員会にとっても大事なことですし、我々は20年で一体何をやってきたかも含めて、若い人も入れ替わっていますので、科学委員会の中でも歴史を伝えて、また地域にも情報を説明できればなと思っています。

さらに、携帯基地の問題は皆さんもいろいろご心配されていると思います。ご存じのとおり、ニカリウスについては、次年度、調査が行われて、その結果を見ながら検討しようと思っています。ただ、地元羅臼町のご意見については、前回の科学委員会でも三宅さんのほうからしっかりお聞きしましたし、そういう思いも含めて科学委員会の中で顕著な普遍的価値を守るということも両立させてやっていきたいと思っていますので、これからもご支援、ご協力をよろしくお願いします。

●事務局（竹本） ありがとうございます。

以上で議事を終わります。

この会議ではいろいろとご意見をいただいておりますが、激変させることは難しいと思います。連絡会議ですので、何か権限を持っているわけではないですが、会議の設立趣旨などを踏まえながら、またご相談しながらやっていきたいと思っております。

4. 閉会

●事務局（竹本） 以上をもちまして、第2回知床世界自然遺産地域連絡会議を閉会いたします。

次回の地域連絡会議は本年11月頃に羅臼町での開催を予定しております。

皆さん、どうもありがとうございました。

以 上